

今月の管内農業情報(田原農業改良普及課)

[2013年12月18日]

11月の農業情報

タイトル ポインセチア販売に危機感、需要の開拓に取り組む

とき 平成25年11月

ところ 田原市

主体・対象 渥美ポインセチア研究会員20名

内容

ポインセチアの需要は年々低下しており、渥美ポインセチア研究会員は、将来の経営に危機感を募らせ、需要を喚起するため、数々の取り組みを始めている。

ブーケやアレンジの切り花替わりに使える商品として、土の代わりに樹脂製の人工培地を用いた栽培方法を考案し、ポインセチアの新たな飾り方を提案したり、ポインセチアのイメージを変える取り組みとして、白色品種の苞を特殊染料で青や紫、オレンジ、鮮やかな黄色などカラフルに着色した商品を出荷している。このような工夫を行った商品は、店頭において消費者の注目度が高く、小売店に好評である。

またクリスマスの季節感の演出に金や銀のラメを振った商品など付加価値を付けた商品の生産を増やしたり、苞が上向きで鉢の置き場所を取らないため、日本の住宅事情にマッチした品種「ジェスター」を様々な鉢サイズで提供するなど需要動向を見極めて生産を行っている。

研究会員はこれらの商品を市場やJA愛知みなみ鉢物部会が開催する見本市やオープンハウスで売り込み、市場への定着を図っている。農業改良普及課では、研究会員の取り組みを支援し、ポインセチアの販売促進に繋げていく。



小売店の店頭を飾る染色したポインセチア



苞が上向きの品種「ジェスター」